

農学における情報利用ゼミナール

飯舘村見学会 レポート

Mr. A (農学国際専攻 M2)

福島県飯舘村は原発事故により、放射能汚染の被害を受けた。そのため、現在、住民の方々は避難生活を余儀なくされている。今回、私たちは飯舘村を活動拠点として被災地域の生活と産業の再生を目指すボランティア団体である「ふくしま再生の会」の活動見学を行った。私は原発による被害をうけた地域に行ったことが無かったため、現地の様子や意見を知る良い機会と考え、今回の見学会に参加することにした。現地では、放射線計測と放射線マップの作成や農地の除染実証実験、情報通信技術を用いた原発被災地の情報発信の様子を見ることができた。

お話を伺うことができた飯舘村佐須地区の農家、管野さんは再生の会のメンバーとして精力的に活動されていた。管野さんは飯舘村の隣の伊達市で避難生活を送っており、週に3~4回飯舘村の自宅に戻り作業をするとのことだった。私が管野さんに持った印象としては、震災関連の事柄についての知識が非常に豊富だと感じた。これらの知識は、震災以降に勉強されたのだと思われる。管野さんの復興に向けての強い意志を感じ取ることができた。



水田でのモニタリングの様子を見学する一同。丸部分がモニタリング機器。この装置で水田の放射線量や気温、水温などを計測していた。これらの測定した情報はネット上で見ることができる。



放射線量の測定機器。

これを持って歩いたり、バイクで走ることによって線量を測定する。手前に括り付けてある GPS 装置で位置情報を記録し、マップに線量を記録することができる。



飯舘村役場の敷地の除染の様子。

もともと敷かれていた敷石を剥がし、ショベルカーにより表土をはぎ取っていた。写真にある飯舘村役場は現在使われておらず、その機能は避難地へ移されている。

私は岩手県大槌町で被災地の復興支援活動を行っている。大槌町は津波により、街の大半が被害を受けた。津波による被害は甚大であり、街の中心部にあった建物は今も無いままで町はまるで廃墟のような状態であった。そのため、インフラ設備や住宅の復興には長い時間を要すると考えられる。

一方、飯舘村は地震による被害こそ大きくなかったものの、原発事故により大きな被害を被っている。放射能は目に見えないぶん、その存在は不気味であり脅威である。この脅威を取り除かない限り、飯舘村の復興は望めないと考えられる。そこで、ふくしま再生の会は放射能に関するデータの収集と発信を行うことで、復興の一助を担っている。このように客観的なデータに基づいて放射能問題に理解を深めることが重要だと考えられる。住民の復興への意志を継続させるには復興への見通しを立てることが必要である。作付けが可能になる、飯舘産のコメを流通できるようになる、除染が完了する、といった復興への段階があと何年くらいかかるのかを明らかにすることで住民の忍耐や結束が強まるのではないかと考えている。